

道頓堀川では、戎橋周辺の水面に映る美しいネオンの光や、湊町リバープレイス・京セラドームなどの近代建築を背景とした風景が見られるほか、天神祭や歌舞伎の船乗り込みが行われる時には、川面一面が船が彩り、賑わいのある水の都・大阪の風景を感じることができます。



どうとんぼりがわ
道頓堀川



道頓堀川界隈のおいたち

道頓堀川は、元和元年(1615)に完成した堀川です。開削当時の周辺は、歌舞伎の中座などの芝居小屋が集積し、劇場街として栄えていました。

明治の中頃まで、観劇には屋形船や茶船を利用していたそうです。

昭和25年のジェーン台風による高潮対策事業では、西横堀川合流点から木津川までの区間に防潮壁が整備されました。

昭和42年には、汚濁対策と高潮防御を目的として、大黒橋上流の両岸に舟型の新護岸の整備が行われました。

そして、水質浄化や環境整備を目的として、昭和54年にエアレーション(噴水)、平成元年に戎橋下流部にウォーターカーテンが設置されました。

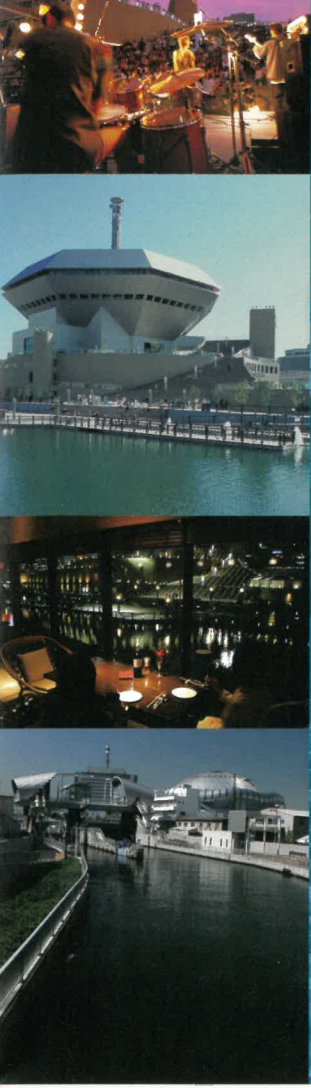
江戸期



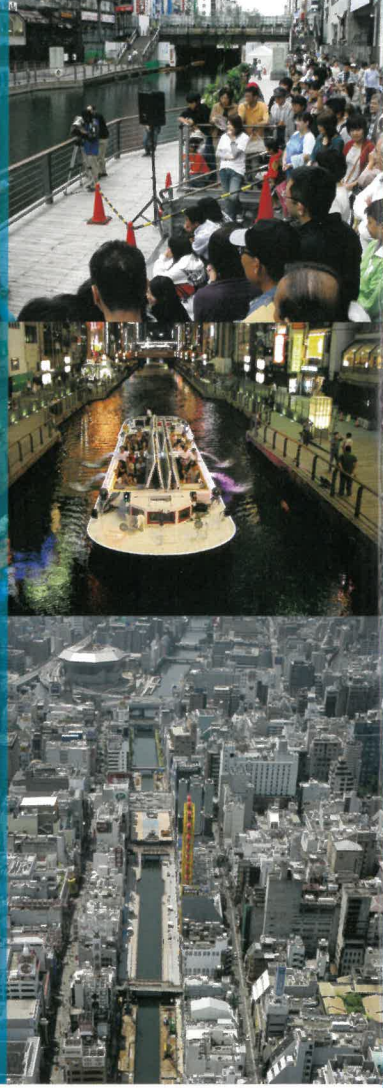
■道頓堀の図(浪花名所図会)
歌川広重画
(大阪府立中之島図書館所蔵)



■道頓堀角芝居(浪花百景)
歌川国貞画
(大阪府立中之島図書館所蔵)



うるおいと賑わいのある道頓堀川の風景



明治・大正期



■明治中期の道頓堀川
(石川達二氏蔵)



■大正時代の道頓堀界隈

昭和・平成



■道頓堀川に沿って繁栄した料亭
昭和初期の風景



■グリーンベルト(舟型護岸)の完成
昭和42年頃



■噴水(エアレーション)の設置
昭和54年度事業
(写真は平成11年の天神祭)



■ウォーターカーテンの設置
平成元年

道頓堀川水辺整備事業

道頓堀川は、大阪を代表する河川であり、都心南部に残された貴重な水辺空間でもあります。

しかし、治水対策のために護岸が嵩上げされたことや、水質の汚濁などによって、現在の道頓堀川は、まちと隔たった存在となっていました。

道頓堀川水辺整備事業は、大阪市が掲げるまちづくりの目標「水の都・大阪」の再生に向け、この道頓堀川の水辺に親水性の高い遊歩道を整備し、その潤いある新鮮な空間によって都市魅力の向上に寄与することをめざしています。

事業区間 道頓堀川全川 約2.7kmのうち 湊町～日本橋間 約1.0km



■従前の道頓堀川
(道頓堀川戎橋～太左衛門橋区間)



■整備後の道頓堀川
(道頓堀川戎橋～太左衛門橋区間)



■浮庭橋



■湊町区間遊歩道の夜景

とんぼりリバーウォークでのにぎわい



■七月大歌舞伎船乗り込み(主催:松竹)



■水上イベント



■音楽イベント



■期間限定の飲食営業

とんぼりリバーウォークでは、飲食や物販など様々なイベントを実施しています。

これまでにを行ったイベントやとんぼりリバーウォークの利用に関する情報をホームページに掲載しております。どうぞご覧下さい。

ホームページのURLは <http://www.tonbori.jp/>

水辺整備計画

水辺整備に先立ち、道頓堀川の下流端に新水門を建設し、老朽化していた東横堀川水門を新水門に改築することにより、高潮への防備を固めるとともに、安全な親水空間に不可欠な水位の調整を可能にしました。また、両水門は閘門としての機能を有しているため、スムーズな船の通行も可能となりました。

水辺整備では、両岸に沿って川面に近い場所に親水性豊かな遊歩道を設け、休憩施設や広場、船着場などを各所に整備して、潤いを感じながらまちを楽しむことのできる水辺の歩行者空間をつくっていきます。



生まれ変わる繁盛の堀

親水性の高い遊歩道の整備

完成した遊歩道は、片側8m程度の幅があり、このなかでスロープや広場を設けることにより、様々な川の風景、まちの風景が楽しめる場所を生み出します。

また、沿川の建物から遊歩道へ直接出られる出入り口を設けることもできるので、将来は水辺に沿った新しいまちなみが期待されます。



■とんぼりリバーウォーク夜景(戎橋～太左衛門橋区間遊歩道)



■遊歩道(戎橋～太左衛門橋間)断面図

遊歩道は、親水性の高い憩いの空間であるとともに、護岸の補強もかねています。